

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

資料5

令和2年12月24日

協議会名:	弥富市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	令和2年度地域公共交通確保維持事業のうち陸上交通(地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>市民生活と地域を支える持続可能な地域公共交通の確保・維持</p> <p>(利用者実態調査等の結果より、利用者総数は少ないものの「利用者の約8割が65歳以上の高齢者で、買い物や通院、公共施設の利用目的の利用が多い」という特徴を把握することができ、高齢者等交通弱者の交通手段確保の必要性が明らかにされた。また、「弥富市地域公共交通網形成計画」に基づき、今後も市内バス運行の改善・充実のため、利用者実態調査やモニタリング調査を実施し、ニーズに即したダイヤの見直し、隣接する自治体との連携等の検討を行い、あわせて地域公共交通確保維持事業により、市民生活と地域を支える持続可能な地域内フィーダー系統としてのコミュニティバスを確保・維持していくことが必要である。)</p>

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年12月24日

協議会名: 弥富市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 令和2年度地域公共交通確保維持事業のうち陸上交通(地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
三重交通(株)	弥富市内を巡回する3路線(北部ルート、東部ルート、南部ルート)を運行し、各ルートとも近鉄弥富駅やイオンタウン、総合福祉センター等の主要な施設にアクセス。また、東部ルートは地域間幹線系統である飛島公共交通バス蟹江線と一部バス停を共有。	地域公共交通網形成計画の見直し(実施主体:協議会) ⇒住民アンケートやバス利用者アンケート、OD調査のほか、住民意見交換会を開催するなど、利便性の高い持続性のある公共交通の実現を目指し、地域公共交通網形成計画の見直し検討を進めている。なお、令和3年1月にはパブリックコメントを実施予定である。  継続的な利用促進活動の推進(実施主体:市) ⇒きんちゃんバス非利用者にも配布される住民アンケートの案内文に、料金体系やシルバーパス、サイクル&バスライド駐輪場などの運行情報を掲載 ⇒無料お試し乗車券(市内全世帯及び小学生に配布)による新たな需要の掘り起しを実施し、新規利用者66名で約97%に今後の利用意向あり)	A 計画通り、弥富市内を巡回する3路線を運行するとともに、モニタリング調査(利用者アンケート)や利用実態調査(利用者数(毎日)、OD(1週間))等を実施し、できる限り利用実態やニーズの把握に努めた。また、協議会を計4回開催するとともに、無料お試し乗車券の配布による新規利用の発掘、広報誌やHP、イベントの場等を活用した情報提供に努めており、適切に実施している。	B 【利用者満足度の向上】 ・モニタリング調査(利用者アンケート)による満足度について 50%以上の維持目標とし、46.4%と前年度よりも減少 ⇒48.9%→46.4%(「非常に満足」「やや満足」の割合)  B 【1便当たり乗車人員数の増加】 ・1便当たり乗車人員数の前年度からの増加を目標とし、全ルートで減少(回復傾向となっているものの、利用者数は前年度比約13%減と新型コロナの影響が大きい)  B ⇒北部ルート:10.2人/便→8.8人/便  B ⇒南部ルート:8.6人/便→7.9人/便  B ⇒東部ルート:10.5人/便→7.9人/便	南部地域において通勤・通学・通院急行バス社会実験運行を実施 ◆新たな地域公共交通網形成計画に基づき、令和3年度には南部地域の具体的な再編検討を進めることになっており、先行して通勤・通学・通院急行バス社会実験運行を実施 ◆他の地域においても、再編も視野に入れた運行改善について、翌年以降に地区別意見交換会や協議会を通して順次検討・実施  新型コロナ対策も含めた継続的な利用促進活動の推進 ◆きんちゃんバス利用時の目的施設も含めた一体的な新型コロナ対策の継続の実施 ◆アンケート調査や広報、HP、意見交換会などの住民との接点を活用し、新型コロナ対策実施状況や公共交通の安全性の周知、きんちゃんバスや周辺自治体が運行するバスの情報、かしいクルマの使い方の情報を提供 ◆GTFSデータの活用による乗り換え検索への対応拡充による利便性向上

中部様式

令和2年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

## 弥富市地域公共交通活性化協議会

平成21年7月10日設置

フィーダー系統 令和元年6月27日 確保維持計画策定等

直近の二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
◆今年度の調査結果を踏まえ、隣接する木曾岬町や飛島村と連携し、持続可能な地域公共交通サービスを実現するための計画策定を期待。	◇次期地域公共交通網形成計画では、木曾岬町や飛島村との連携を位置づけ、事業を推進する計画となっている。	●次期地域公共交通網形成計画に基づき、着実な事業推進を図り、市民生活と地域を支え、持続可能な地域公共交通として確保・維持に努める。
◆「利用者満足度の向上」という目標値については次期計画策定過程において、その妥当性を含めて検討するとともに、市としての明確なビジョン及び目標設定の検討を願う。	◇次期地域公共交通網形成計画では、市としてのビジョンと連動し、法改正を念頭においた目標指標へと変更することで検討を進めている。	

### 地域の特性と背景

- 平成22年3月「弥富市地域公共交通総合連携計画」策定
- 平成28年3月「弥富市地域公共交通網形成計画」策定
- バス利用者の約7割が75歳以上、65歳以上を含めると約8割が高齢者で、買い物や通院、公共施設の利用目的が多い。(75歳以上には無料パスカードを全員に配布)

### 総合計画・都市マスにおける公共交通(バス)の位置づけ

- 総合計画：コミュニティバスの利便性向上(重点施策)
- 都市マス：弥富駅を中心に、高齢者をはじめとしたすべての市民が利用しやすい交通環境の整備

### 弥富市地域公共交通網形成計画(見直し中)

#### ○計画期間

平成28年度～平成32年度

#### ○基本方針

市民生活と地域を支える  
持続可能な地域公共交通  
の確保・維持

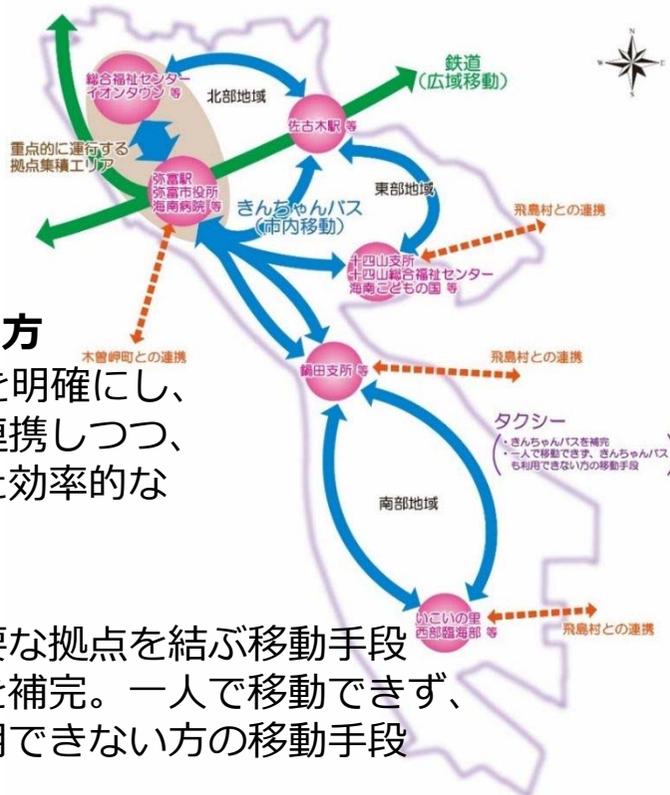
#### ○地域公共交通の連携の考え方

主要な地域公共交通の役割を明確にし、まちづくり等の関連計画と連携しつつ、地域特性や利用状況に応じた効率的な地域公共交通を展開

**鉄道**：広域的な移動手段

**きんちゃんバス**：市内の主要な拠点を結ぶ移動手段

**タクシー**：きんちゃんバスを補完。一人で移動できず、きんちゃんバスも利用できない方の移動手段



### 現在の地域公共交通網



**主な取り組み内容**

**○地域公共交通網形成計画の見直し** (実施主体：協議会)  
 ⇒住民アンケートやバス利用者アンケート、OD調査のほか、住民意見交換会を開催するなど、利便性の高い持続性のある公共交通の実現を目指し、周辺町村との連携も踏まえた地域公共交通網形成計画の見直し検討を推進  
 ⇒令和3年1月にはパブリックコメントを実施予定

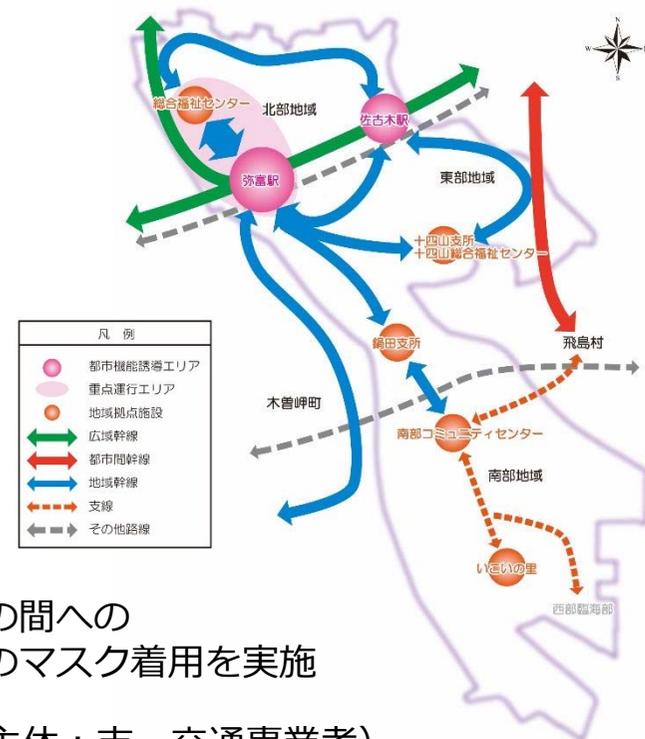
**○情報提供等周知活動の実施** (実施主体：市)  
 ⇒利用者アンケートの案内文に、料金体系やシルバーパス、サイクル&バスライド駐輪場などの運行情報を掲載

**○新型コロナ対策の実施** (実施主体：市、交通事業者)  
 ⇒車内換気(換気扇2箇所、窓開け)、運転席と運賃入れとの間へのビニールカーテンの設置、座席シートなどの除菌や運転手のマスク着用を実施

**○無料お試し乗車券による新規利用者の掘り起し** (実施主体：市、交通事業者)  
 ⇒市内全世帯及び小学生に配布し、利用期間は親子での継続的な利用機会の創出を図るための夏休み期間のほか、高齢者等の利用にも配慮し、涼しくなる9月も含めた2ヶ月間に設定  
 (新規利用者66名で約97%に今後の利用意向あり)  
 ⇒新型コロナ対策(安全性)の周知も合わせて実施

※その他主な取り組み

- ・75歳以上への無料パスカード配布
- ・65歳以上へのシルバーパスの販売
- ・福祉タクシー料金助成事業の拡充、実施
- ・NAVITIME、駅すぱあとでのダイヤ検索対応 等

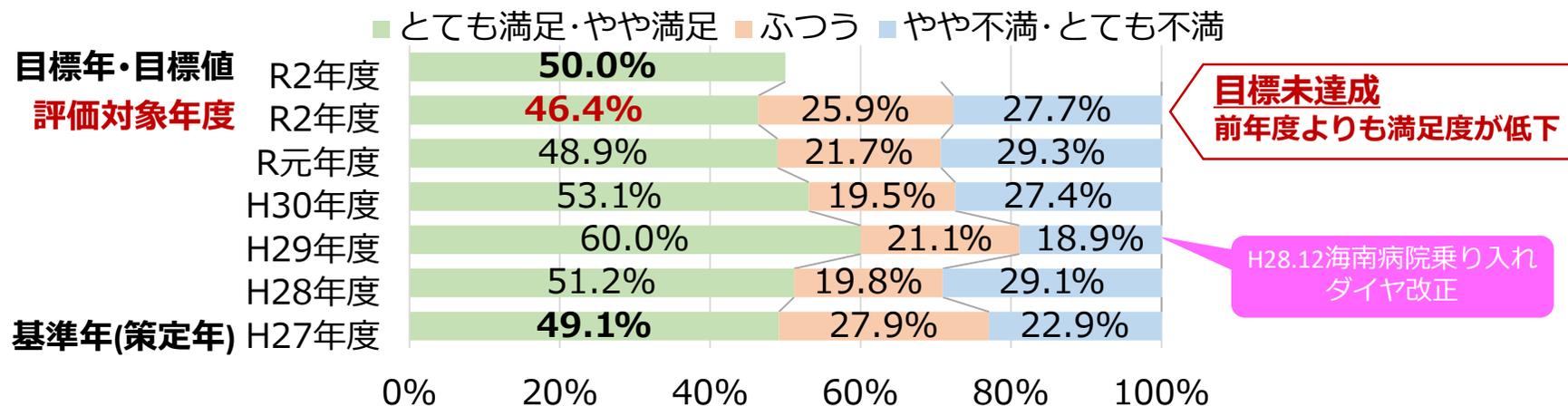


## 基本方針：市民生活と地域を支える持続可能な地域公共交通の確保・維持

### 目標1：利用者満足度の向上（50%以上の維持）

#### 【目標設定の趣旨】

継続的な改善を総合的に評価する指標として利用者の満足度を把握し、その向上を図る



⇒海南病院への乗り入れを開始した翌年のH29年度をピークに満足度が減少傾向

⇒不満理由として全体的に「運行便数が少ない」が多いが、特に南部ルートでの不満が多い

#### 今後の方針

- これまでの住民意見交換会などで得た課題などを基に、特に不満の多い南部地域を中心に朝夕の運行便数の増加等利便性向上を図るため、通勤・通学・通院急行バス社会実験運行を実施予定
- 各地域においてさらなる利便性向上を図るため、新たな地域公共交通網形成計画に基づき、順次再編検討を実施予定

※本指標は直近の二次評価結果を踏まえ、新たな地域公共交通網形成計画において廃止予定

**基本方針：市民生活と地域を支える持続可能な地域公共交通の確保・維持**

**目標2：1便当たり平均乗車人員の増加（前年度からの増加）**

**【目標設定の趣旨】**

現在の1便あたり平均乗車人員の状況を最低限維持するとともに、継続的な改善と利用促進策の展開により、できる限り増加を目指す

補助年度(10月～9月)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
利用者数	69,704	72,628	78,494	78,835	82,534	<b>71,823</b>
北部ルート	23,416	25,602	28,240	29,321	32,652	<b>28,238</b>
南部ルート	35,661	35,493	37,334	35,682	35,186	<b>32,411</b>
東部ルート	10,627	11,533	12,920	13,832	14,696	<b>11,174</b>
1便あたり平均乗車人員	8.0	8.2	8.9	9.0	9.5	<b>8.2</b>
北部ルート	7.3	7.9	8.8	9.1	10.2	<b>8.8</b>
南部ルート	8.7	8.5	9.0	8.6	8.6	<b>7.9</b>
東部ルート	7.6	8.1	9.1	9.8	10.5	<b>7.9</b>

全体の利用者数は約13%減少  
 ◆北部：約14%減少（高齢者約8割で買い物中心）  
 ◆南部：約8%減少（高齢者約4割で通勤通学買い物中心）  
 ◆東部：約24%減少（高齢者約8割で温浴施設中心）  
 ※（ ）内は各ルートの利用特性

**目標未達成**

決算年度(4月～3月)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R2年度(目標年)
1便あたり平均乗車人員	8.0	8.7	9.0	9.2	9.6	<b>7.0</b>	<b>9.8</b>
北部ルート	7.5	8.3	9.0	9.8	10.2	<b>7.5</b>	<b>11.8</b>
南部ルート	8.4	9.0	8.8	8.4	8.9	<b>6.8</b>	<b>8.7</b>
東部ルート	7.8	8.6	9.4	10.3	10.2	<b>6.2</b>	<b>9.5</b>

網形成計画の目標値達成  
 目前に減少に転じる

※目標値は過去の実績を直線トレンドで設定  
 ※R2年度は9月末時点の実績

- ⇒利用者数はコロナ禍の影響により前年度から約13%減少
- ⇒利用の8割以上が高齢者で温浴施設利用目的の多い東部ルートの減少が大きい  
 （緊急事態宣言中、高齢者利用の多い温浴施設は休館、その後も8割程度の利用）
- ⇒現在は回復傾向（単月最大で5割程度まで減少したが、現在は8割程度まで回復）

**今後の方針**

- コロナ対策による公共交通の安全性の周知など、継続的に利用促進活動を推進
  - 新たな地域公共交通網形成計画に基づき、利便性の高い持続性のある公共交通を実現
- ※本指標は法改正等も踏まえ、新たな地域公共交通網形成計画において利用者数に変更予定

- 課題**
- 満足度が低下し、不満な理由は「運行便数が少ない」が多い
  - 南部地域の住民意見交換会においても、現在も中心となっている通勤・通学・通院利用者にとっての更なる利便性向上が必要との意見が多い
  - 再編も視野にいれたさらなる利便性向上が必要

### **対応方針** 南部地域において通勤・通学・通院急行バス社会実験運行を実施

- ◆ 新たな地域公共交通網形成計画に基づき、令和3年度には南部地域の具体的な再編検討を進めることになっており、先行して通勤・通学・通院急行バス社会実験運行を実施予定
- ◆ 他の地域においても、再編も視野に入れた運行改善について、翌年以降に地区別意見交換会や協議会を通して順次検討・実施予定

- 課題**
- 利用者数はコロナ禍の影響により前年度比の約13%減
  - 温浴施設等を目的とした高齢者の利用が大幅に減少
  - 確実な新型コロナ対策を実施するとともに、継続的な利用促進活動が必要

### **対応方針** 新型コロナ対策も含めた継続的な利用促進活動の推進

- ◆ きんちゃんバス利用時の目的施設も含めた一体的な新型コロナ対策の継続的实施
- ◆ アンケート調査や広報、HP、意見交換会などの住民との接点を活用し、新型コロナ対策実施状況や公共交通の安全性の周知、きんちゃんバスや周辺自治体が運行するバスの情報、かしこいクルマの使い方の情報を提供
- ◆ GTFSデータの活用による乗り換え検索への対応拡充による利便性向上